

佐々木 信 綱

ゆく秋<sup>あき</sup>の大和<sup>やまと</sup>の国<sup>くに</sup>の薬師寺<sup>やくしじ</sup>の

塔<sup>とう</sup>の上<sup>うえ</sup>なるひとひらの雲<sup>くも</sup>

ゆく秋<sup>あき</sup>の大和<sup>やまと</sup>の国<sup>くに</sup>の薬師寺<sup>やくしじ</sup>の

塔<sup>とう</sup>の上<sup>うえ</sup>なるひとひらの雲<sup>くも</sup>

【作者】佐佐木信綱（一八七二～一九六三年）明治五年～昭和三十八年。国文学者。歌人。東京帝大卒。三重県出身。佐佐木弘綱の長男。号は竹柏園。

和歌の歴史的研究、万葉の基礎的研究に尽力。明治和歌革新運動を起こし竹柏会を設立。機関誌「心の花」を刊行した。著編書に「万葉集の研究」「校本万葉集」。歌集に「おもい草」「豊旗雲」がある。門下に川田順、九条武子がいる。昭和九年（一九三四年）学士院会員。昭和十二年（一九三七年）文化勲章を受章。年九十一

【語釈】\*ゆく秋：過ぎゆく秋・晩秋 \*薬師寺：奈良市西の京に在る南都七大寺の一つ

\*塔：白鳳時代の名建築・三重の塔であるが裳階（もこし）がついて五重の塔に見える

【通釈】晩秋の奈良、薬師寺の古塔の上に、一片の雲が浮かんでいる。ああその一ひらの雲よ。